

パネルディスカッション講演

「防災科学技術を活用した防災教育支援」

講師：源 栄 正人 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授

「防災科学技術を活用した防災教育支援」と題して、パネルディスカッションの講演が行われました。

講演内容は、前回（1978年）宮城県沖地震の教訓、安全教育（防災教育）に必要なもの、防災科学技術を用いた防災教育、防災研究成果普及事業と防災教育支援素材等となっています。以下にその概要を紹介します。

1. 1978年宮城県沖地震の教訓

1978年宮城県沖地震の特徴が紹介され、当時の宮城県の年間予算額に匹敵する被害であったこと、死者は28名であったこと、都市型災害でライフラインの被害が大きかったこと、地盤の違いによる建物被害の差が顕著であったこと、火災が少なかったこと等が述べられました。また、地震の教訓として耐震構造が発展したこと、当時の山本知事が指摘した教訓が紹介されました。

2. 2007年新潟県中越地震の被害調査

2007年新潟県中越地震の被害調査として、学校では門柱の転倒、通学路ではブロック塀の転倒などが紹介されました。

3. 安全教育（防災教育）に必要なもの

安全教育・防災教育の基本軸として安全能力の構造（適応共生力、危険予知力、事故対応力）が紹介されました。

4. 地震防災教育に必要な項目

地震防災教育に必要な項目として、①過去に学ぶ、②揺れの仕組み、③備える（危険な場所の削減、安全な場所の確保など）、④教育（防災訓練など）が述べられました。地盤条件によって異なる地震時の揺れ、建物の階によって異なる地震時の揺れ、防災指導車（ぐらら）による実感、なども紹介されました。

5. 防災研究成果普及事業と防災教育支援素材

緊急地震速報と連動した学校向け防災教育・訓練システム、みやぎSWANを活用した地震早期警報システムの実証試験、防災教育ビデオなどが紹介されました。

6. 科学技術と地震防災

最後に、最新の科学技術の有効利用、教育との連携の必要性、ハード技術とソフト技術の融合によるイノベーション、自然科学と社会科学の融合による社会の発展に伴う地震災害の様相の変化への対応が述べられ、変化に強いものが生き残るとの指摘がなされました。